

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4828509号
(P4828509)

(45) 発行日 平成23年11月30日 (2011.11.30)

(24) 登録日 平成23年9月22日 (2011.9.22)

(51) Int. Cl.	F 1
A 6 1 L 9/03 (2006.01)	A 6 1 L 9/03
A O 1 M 1/20 (2006.01)	A O 1 M 1/20 K

請求項の数 1 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2007-305286 (P2007-305286)	(73) 特許権者	000102544
(22) 出願日	平成19年11月27日 (2007.11.27)		エステー株式会社
(65) 公開番号	特開2009-125406 (P2009-125406A)		東京都新宿区下落合1丁目4番10号
(43) 公開日	平成21年6月11日 (2009.6.11)	(74) 代理人	100088100
審査請求日	平成22年6月18日 (2010.6.18)		弁理士 三好 千明
		(72) 発明者	明神 弘恭
			東京都新宿区下落合2丁目4番6号 エス ター株式会社エスターR&Dセンター内
		(72) 発明者	樋口 賢
			東京都新宿区下落合2丁目4番6号 エス ター株式会社エスターR&Dセンター内
		(72) 発明者	蛇沼 礼
			東京都新宿区下落合2丁目4番6号 エス ター株式会社エスターR&Dセンター内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 蒸散装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

トレイ内の蒸散剤を当該トレイの開口部を閉鎖した蒸散面から蒸散するカートリッジと、
該カートリッジを装着する装着部が設けられた装置本体とを備え、

前記カートリッジの前記トレイに、前記蒸散剤を収容する互いに区画された複数の収容
部が横並びに設けられるとともに、前記装置本体に、前記カートリッジを前記装着部に装
着した状態で前記各収容部に収容された蒸散剤を加熱する加熱部と、前記各収容部から蒸
散した蒸散剤を放出する放出部とが設けられた蒸散装置において、

前記トレイの開口部を閉塞した前記蒸散面を透明乃至半透明のガス透過性フィルムで構
成して前記各収容部に収容された蒸散剤に異なる色彩を施す一方、

前記カートリッジを前記装着部に装着して使用する際に前記トレイの底面を傾斜乃至起
立し前記各収容部を横方向に配列して配置した状態で当該カートリッジを保持するように
前記装着部を構成し、前記加熱部の加熱源を前記各収容部の下寄りに配置するとともに、

前記カートリッジの挿入部を側方へ向けて開口し、装着時に下側に位置する前記カート
リッジの下縁をガイドして当該カートリッジを前記装着部に装着可能に構成したことを特
徴とする蒸散装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、芳香剤等の蒸散剤を蒸散する蒸散装置に関する。

10

20

【背景技術】

【0002】

従来、芳香剤を蒸散させる装置としては、蒸散装置としての芳香器が知られている（例えば、特許文献1）。

【0003】

この芳香器のケーシングは、上面開口状に形成されており、このケーシングには、内部を左右に分割する仕切壁が設けられている。該仕切壁は、ヒータ板を内蔵しており、該ヒータ板は、コンセントプラグから供給される電源によって加熱されるように構成されている。

【0004】

この仕切壁の両側部には、カートリッジが装着される装着部が設けられており、装着されたカートリッジは、トレイ底面が前記仕切板に接するように構成されている。

【0005】

これにより、前記カートリッジは、その底面から前記ヒータ板からの熱を受け、収容された芳香液を加熱することで、加熱された芳香液をトレイを閉鎖する蒸散面から蒸散できるように構成されている。

【0006】

このとき、前記仕切壁の両脇に形成された各装着部に異なる芳香液を収容したカートリッジを装着することで、異なる二種類の香りの芳香液を蒸散できるように構成されている。

【特許文献1】特開2003-305113号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかしながら、このような従来の芳香器にあっては、異なるカートリッジを背中合わせにセットするように構成されている。

【0008】

このため、装置本体が厚肉になってしまい、壁面にあるコンセントに取り付けた場合、大きく飛び出てしまい、邪魔になるばかりか、歩行の際に引っ掛かってしまい、プラグやコンセントプラグを傷めてしまう恐れがあった。

【0009】

本発明は、このような従来の課題に鑑みてなされたものであり、薄肉化を図ることができる蒸散装置を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

前記課題を解決するために本発明の蒸散装置にあっては、トレイ内の蒸散剤を当該トレイの開口部を閉鎖した蒸散面から蒸散するカートリッジと、該カートリッジを装着する装着部が設けられた装置本体とを備え、前記カートリッジの前記トレイに、前記蒸散剤を収容する互いに区画された複数の収容部が横並びに設けられるとともに、前記装置本体に、前記カートリッジを前記装着部に装着した状態で前記各収容部に収容された蒸散剤を加熱する加熱部と、前記各収容部から蒸散した蒸散剤を放出する放出部とが設けられた蒸散装置において、前記トレイの開口部を閉塞した前記蒸散面を透明乃至半透明のガス透過性フィルムで構成して前記各収容部に収容された蒸散剤に異なる色彩を施す一方、前記カートリッジを前記装着部に装着して使用する際に前記トレイの底面を傾斜乃至起立し前記各収容部を横方向に配列して配置した状態で当該カートリッジを保持するように前記装着部を構成し、前記加熱部の加熱源を前記各収容部の下寄りに配置するとともに、前記カートリッジの挿入部を側方へ向けて開口し、装着時に下側に位置する前記カートリッジの下縁をガイドして当該カートリッジを前記装着部に装着可能に構成した。

【0011】

すなわち、前記カートリッジには、蒸散剤を収容する互いに区画された複数の収容部が

10

20

30

40

50

トレイの底面に沿って並設されており、このカートリッジが装着される装置本体には、装着されたカートリッジの蒸散剤を加熱する加熱部が設けられている。

【0012】

このため、前記各収容部に異なる蒸散剤を収容することによって、異なる蒸散剤を蒸散することができる。

【0014】

また、前記装置本体には、装着部に装着されたカートリッジの蒸散面が対向する部位に、前記各収容部から蒸散された蒸散剤を放出する放出部が設けられている。

【0015】

このため、前記各収容部に収容された異なる蒸散剤は、前記放出部から放出される。

10

【0017】

さらに、蒸散剤の終点がわかりやすいとともに、デザイン性に優れる。

【0019】

また、前記カートリッジの各収容部は横並びに配列されており、このカートリッジを装置本体の装着部に装着して使用する際には、前記トレイの底面が傾斜乃至起立されるとともに前記各収容部が横方向に配列して配置される。

【0020】

このため、前記各収容部に収容された蒸散剤が蒸散に伴って減少した場合、蒸散剤は各収容部の下側に偏る。

【0021】

20

このとき、前記蒸散剤をトレイの底面側から加熱する加熱部の加熱源は、前記各収容部の下寄りに配置されている。このため、各収容部の下側に貯留された蒸散剤は、前記加熱源からの熱によって加熱される。

【発明の効果】

【0022】

以上説明したように本発明の蒸散装置にあつては、蒸散剤を収容する収容部をトレイの底面に沿って並設するとともに、装着されたカートリッジの蒸散剤を加熱する加熱部を装置本体に設けたので、平面状に配列された各収容部に異なる蒸散剤を収容することで、異なる蒸散剤を蒸散することができる。

【0023】

30

このため、異なる蒸散剤を蒸散する際に、異なる蒸散剤が収容されたカートリッジを背中合わせに配置しなければならなかった従来と比較して、装置本体を薄肉化することができる。これにより、装置本体のコンパクト化を図ることができる。

【0024】

また、装着部に装着されたカートリッジの蒸散面が対向する装置本体の部位に、前記各収容部から蒸散された蒸散剤を放出する放出部を設けることによって、前記各収容部に収容された異なる蒸散剤を前記放出部から放出することができる。

【0025】

このため、この放出部を前面に設定することで、異なる蒸散剤を前方に放出することができる。これにより、異なる蒸散剤が異なる方向へ放出される場合と比較して、複数の蒸散剤を混合して放出する際の効果を高めることができる。

40

【0026】

また、蒸散剤が壁面に沿って放出される場合と比較して、蒸散剤が壁面に与える影響を抑制することができる。

【0027】

さらに、前記トレイの開口部を閉塞した前記蒸散面を透明乃至半透明のガス透過性フィルムで構成するとともに、各収容部に収容された蒸散剤に異なる色彩を施すことによって、蒸散剤の終点がわかりやすくすることができるとともに、デザイン性を向上することができる。

【0028】

50

加えて、前記各収容部の蒸散剤が下側に偏る蒸散剤減少時であっても、前記各収容部の下寄りに配置された加熱源からの熱によって各収容部内の蒸散剤を効率よく加熱することができる。

【0029】

これにより、蒸散剤減少時での蒸散効率の低下を防止する効果を得ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0030】

以下、本発明の一実施の形態を図に従って説明する。図1は、本実施の形態にかかる蒸散装置1を示す図であり、該蒸散装置1は、消臭剤、芳香剤、防虫剤、殺虫剤等の蒸散剤を蒸散する装置である。この蒸散剤としては、ゲル状の薬剤や液状の薬剤が挙げられるが、本実施の形態では、液状の薬剤が用いられている。

10

【0031】

この蒸散装置1は、図1及び図2に示すように、装置本体11と、該装置本体11に交換可能に装着されるカートリッジ12とによって構成されている。

【0032】

該カートリッジ12は、図3にも示すように、樹脂製のトレイ21と、該トレイ21の開口部を閉鎖する蒸散面22とからなり、該蒸散面22は、液状の蒸散剤は通さず、蒸散され気化された蒸散剤は透過する透明乃至半透明のガス透過性フィルムで構成されている。

【0033】

20

前記トレイ21は、図4及び図5にも示すように、横長形状に形成されており、図4及び図5中、左寄りの部分に底面31側へ突出した第一収容部32と第二収容部33とが膨出形成されている。前記第一収容部32は、当該トレイ21の図5中左方である先端側に配置されており、前記第二収容部33は、図5中右方である基端側に配置されている。これにより、前記両収容部32、33は、前記トレイ21の底面31に沿って並設されるとともに、横並びに配列されている。

【0034】

前記第一収容部32は、図3及び図4に示したように、半円形状に形成されており、前記第二収容部33も半円形状に形成されている。両収容部32、33は、弦を構成する辺が対向して配設されており、前記第一収容部32は前記第二収容部33と共に円形を成すように配置されている。

30

【0035】

前記第一収容部32と前記第二収容部33との間には、両者を区画する区画部41が上下に方向に延在しており、前記蒸散面22を構成するガス透過性フィルムは、図4及び図5に示したように、前記各収容部32、33の外周部及び前記区画部41に接着されている。これにより、隣接した前記両収容部32、33は、互いに区画されており、各収容部32、33には、異なる色彩の異なる蒸散剤が収容されている。

【0036】

前記各収容部32、33の底面31には、図4に示したように、半径方向に延在する線状凹部51、・・・と、同心円上に延在する円弧状凹部52、・・・とが形成されており、当該底面31には、凹凸が形成されている。この凹凸によって、各収容部32、33は、補強されている。

40

【0037】

前記トレイ21の一般部61は、前記両収容部32、33から図4中右方である基端側へ延出するように、その長さ寸法が設定されており、この基端側に延出した一般部61によって着脱時に操作される舌片62が構成されている。そして、この舌片62の中央部には、図3から図5に示すように、底面側へ膨出形成された突起63が形成されている。

【0038】

前記装置本体11は、図2に示したように、前面を形成する前ケース71と、裏面を形成する裏ケース72と、前記前ケース71及び裏ケース72内に収容される中ケース73

50

とによって構成されている。

【0039】

前記前ケース71は、円形リング状に形成されており、その横断面形状は、図6及び図7に示すように、前方に突出した円弧状に形成されている。この前ケース71の裏面には、図6に示したように、後方に延出した円筒部75、75が突設されており、各円筒部75、75は、リブ74、・・・によって側方から支持されている。

【0040】

前記裏ケース72は、図2に示したように、円形容器状の容器部81を中心に構成されており、該容器部81の外周部には、図6及び図7に示したように、横断面円弧状のリング部82が形成されている。このリング部82は、前記前ケース71に対応した形状に形成されており、図6及び図8に示すように、図6中、右側の部位に切欠部83が形成されている。このリング部82には、図6に示したように、ネジ挿入部84が凹設されており、該ネジ挿入部84の底面には、タッピンねじ85が挿入される挿入部86が開設されている。

10

【0041】

このリング部82の外周縁には、図7に示したように、前方へ延出した凸条91が形成されており、該凸条91に対向する前記前ケース71の周縁には、前記凸条91が挿入される凹溝92が形成されている。これにより、前記凸条91を前記凹溝92に嵌着した状態で、前記裏ケース72を前記前ケース71に連結するとともに、前記挿入部84に挿入した前記タッピンねじ85を前記前ケース71の円筒部75に螺入することで、前記裏ケース72を前記前ケース71に固定できるように構成されている。

20

【0042】

前記容器部81には、図6から図8に示したように、電子基板101が設けられており、該電子基板101からは、コンセントプラグ102、102が延出している。このコンセントプラグ102、102は、前記容器部81を挿通して裏側へ延出しており、部屋の壁面Wなどに設けられたコンセントに差し込むことで、商用電源の供給を受けられるように構成されている。

【0043】

前記電子基板101には、電子回路が形成されており、当該電子基板101の前記中ケース73側の面には、発熱体としてのヒータ111が設けられている。該ヒータ111には、図8に示したように、加熱源としての加熱板112が面接した状態で固定されており、該加熱板112は、前記ヒータ111からの熱で加熱され、その熱を全面に伝導するように構成されている。

30

【0044】

この加熱板112は、前記電子基板101の一端側に設けられており、前記コンセントプラグ102、102を壁面Wのコンセントに差し込んだ使用状態において、図7及び図8に示したように、下側に位置するように構成されている。

【0045】

前記中ケース73は、図2に示したように、円板状の前面部121と、該前面部121の周縁より後方へ延出した周面部122と、該周面部122の後端に設けられた後面部123とによって一体形成されており、該後面部123は、前記前面部121に対向して設けられている。

40

【0046】

前記周面部122は、図2中、右方に切欠部131が設けられており、当該中ケース73は、右方へ向けて開口している。これにより、この中ケース73には、前記カートリッジ12を挿入する挿入部132が側方へ向けて開口しており、当該中ケース73には、前記カートリッジ12を交換可能に装着する装着部133が前記前面部121と前記後面部123との間に形成されている。

【0047】

前記周面部122の上部と前記前面部121とが接続された上側の接続部分には、図7

50

に示したように、装着されたカートリッジ 1 2 の上縁 1 2 a が挿入される上部挿入溝 1 4 1 が横方向に延設されており、前記周面部 1 2 2 の下部と前記前面部 1 2 1 とが接続された下側の接続部分には、装着されたカートリッジ 1 2 の下縁 1 2 b が挿入される下部挿入溝 1 4 2 が横方向に延設されている。

【0048】

これにより、前記カートリッジ 1 2 の上縁 1 2 a 及び下縁 1 2 b を、対応する挿入溝 1 4 1, 1 4 2 へ側方から挿入できるように構成されており、前記カートリッジ 1 2 の上縁 1 2 a 及び下縁 1 2 b を前記各挿入溝 1 4 1, 1 4 2 に挿入して挟持することで、当該カートリッジ 1 2 の前記トレイ 2 1 の底面 3 1 を起立した状態で保持できるように構成されている。

10

【0049】

また、この起立状態において、当該カートリッジ 1 2 の前記蒸散面 2 2 を前記前面部 1 2 1 に面接できるように構成されており、前記上部及び下部挿入溝 1 4 1, 1 4 2 によって前記カートリッジ 1 2 が装着できる方向を規制し、前記蒸散面 2 2 を前記後面部 1 2 3 側である後方へ向けて装着できないように構成されている。

【0050】

さらに、前記上部挿入溝 1 4 1 から前記下部挿入溝 1 4 2 までの寸法は、前記カートリッジ 1 2 の短辺方向での長さに基づいて設定されており、前記装着部 1 3 3 には、前記カートリッジ 1 2 の長辺を縦にして挿入できないように構成されている。

【0051】

20

これにより、当該装置本体 1 1 の前記後ケース 7 2 から延出した前記コンセントプラグ 1 0 2, 1 0 2 を壁面 W のコンセントに差し込んで使用する使用状態において、前記装着部 1 3 3 に装着した前記カートリッジ 1 2 の前記トレイ 2 1 の底面 3 1 を起立するとともに、前記各収容部 3 2, 3 3 を横方向に配列して配置した状態で、当該カートリッジ 1 2 を保持できるように前記装着部 1 3 3 が構成されている。

【0052】

また、この使用状態において、図 7 に示したように、加熱部を構成する前記中ケース 7 3 の前記後面部 1 2 3 の下寄りに加熱源を構成する前記加熱板 1 1 2 が配置されるように構成されている。

【0053】

30

このカートリッジ 1 2 の前記蒸散面 2 2 が面接する前記前面部 1 2 1 の図 2 中下側の部位には、図 2 に示したように、横方向に延在する波形の左放出口 1 5 1, … 及び右放出口 1 5 2, … がそれぞれ三カ所に開設されており、前記各左放出口 1 5 1, … と前記各右放出口 1 5 2, … とは、上下に延在する区画面 1 5 3 によって隔てられている。

【0054】

図 1 中左側に設けられた前記左放出口 1 5 1, … は、前記カートリッジ 1 2 を前記装着部 1 3 3 に装着した状態で、前記第一収容部 3 2 の前側に配置されるように構成されており、図 1 中右側に設けられた前記右放出口 1 5 2, … は、前記第二収容部 3 3 の前側に配置されるように構成されている。

40

【0055】

これにより、前記カートリッジ 1 2 の前記第一収容部 3 2 から蒸散された蒸散剤を前記左放出口 1 5 1, … から外部へ放出できるように構成されており、前記第二収容部 3 3 から蒸散された蒸散剤を前記右放出口 1 5 2, … から外部へ放出できるように構成されている。これにより、前記左右放出口 1 5 1, …、1 5 2, … によって、前記各収容部 3 2, 3 3 から蒸散された蒸散剤を放出する放出部が構成されており、前記コンセントプラグ 1 0 2, 1 0 2 を壁面 W のコンセントに差し込んだ状態で、当該装置本体 1 1 の前面側から前記蒸散剤を部屋の中心部へ向けて放出できるように構成されている。

【0056】

そして、前記前面部 1 2 1 の図 2 中下縁には、横方向に延在する波形の下部凹部 1 6 1

50

が凹設されており、前記前面部 1 2 1 の図 2 中上縁部には、横方向に延在する波形の上部波形開口部 1 6 2 が開口している。

【0057】

この前面部 1 2 1 に対向した前記後面部 1 2 3 の内側面は、平坦面で構成されており、前記装着部 1 3 3 に前記カートリッジ 1 2 を装着した状態で当該カートリッジ 1 2 のトレイ 2 1 の底面 3 1 が当該後面部 1 2 3 に密着するように該後面部 1 2 3 と前記前面部 1 2 1 との間隔が設定されている。

【0058】

この後面部 1 2 3 は、図 6 及び図 7 に示したように、前記電子基板 1 0 1 に設けられた加熱部として前記加熱板 1 1 2 に密着するように構成されており、前記後面部 1 2 3 は、前記加熱板 1 1 2 によって加熱され、その熱が全面に伝達されるように構成されている。

10

【0059】

これにより、この後面部 1 2 3 を介して前記カートリッジ 1 2 の前記底面 3 1 を全体的に加熱できるように構成されており、前記カートリッジ 1 2 を前記装着部 1 3 3 に装着した状態で、前記各収容部 3 2, 3 3 に収容された蒸散剤を前記トレイ 2 1 の底面 3 1 側から加熱する加熱部が前記後面部 1 2 3 によって構成されている。

【0060】

以上の構成にかかる本実施の形態において、装置本体 1 1 に装着されるカートリッジ 1 2 には、互いに区画された第一収容部 3 2 及び第二収容部 3 3 がトレイ 2 1 の底面 3 1 に沿って並設されており、このカートリッジ 1 2 が装着される前記装置本体 1 1 には、装着されたカートリッジ 1 2 の各収容部 3 2, 3 3 内の蒸散剤を前記トレイ 2 1 の底面 3 1 側から加熱する加熱部としての中ケース 7 3 の後面部 1 2 3 が設けられている。

20

【0061】

このため、前記各収容部 3 2, 3 3 に収容された異なる蒸散剤を同時に蒸散することができる。

【0062】

したがって、異なる蒸散剤を蒸散する為に異なる蒸散剤が収容されたカートリッジを背中合わせに配置しなければならなかった従来と比較して、装置本体 1 1 を薄肉化することができる。これにより、前記装置本体 1 1 のコンパクト化を図ることができる。

【0063】

また、前記装着部 1 3 3 に装着された前記カートリッジ 1 2 の蒸散面 2 2 が対向する前記装置本体 1 1 の中ケース 7 3 における前面部 1 2 1 には、前記各収容部 3 2, 3 3 から蒸散された蒸散剤を放出する左放出口 1 5 1, ... 及び右放出口 1 5 2, ... が開設されている。

30

【0064】

このため、前記各収容部 3 2, 3 3 に収容された異なる蒸散剤を前記各放出部 1 5 1, ...、1 5 2, ... から放出することができる。

【0065】

このとき、この放出部 1 5 1, ...、1 5 2, ... は、当該装置本体 1 1 の前面に設定されており、異なる蒸散剤を前方に放出することができる。このため、異なる蒸散剤が異なる方向へ放出される場合と比較して、複数の蒸散剤を混合して放出する際の効果を高めることができる。

40

【0066】

また、前記放出部 1 5 1, ...、1 5 2, ... は、当該装置本体 1 1 のコンセントプラグ 1 0 2, 1 0 2 を部屋の壁 W のコンセントに差し込んだ使用状態において、部屋の中心方向へ向けて開口するように構成されている。これにより、蒸散剤を部屋の中心方向へ向けて放出することができるので、蒸散剤が壁面に沿って放出される場合と比較して、蒸散剤が壁面に与える影響を抑制することができる。

【0067】

さらに、前記トレイ 2 1 の開口部を閉塞した前記蒸散面 2 2 は、透明乃至半透明のガス

50

透過性フィルムで構成されており、各収容部 3 2, 3 3 に収容された蒸散剤は、異なる色彩が施されている。

【0068】

このため、中ケース 7 3 に開設された左放出口 1 5 1, . . . 及び右放出口 1 5 2, . . . から透明乃至半透明のガス透過性フィルムで構成された前記蒸散面 2 2 を介して、各収容部 3 2, 3 3 に収容された蒸散剤の残量を覗くことができる。

【0069】

また、前記各収容部 3 2, 3 3 に収容された蒸散剤は、異なる色彩が施されている。このため、各蒸散剤の終点を分かりやすくすることができるとともに、デザイン性を向上することができる。

10

【0070】

さらに、前記カートリッジ 1 2 の各収容部 3 2, 3 3 は横並びに配列されており、このカートリッジ 1 2 を前記装置本体 1 1 の前記装着部 1 3 3 に装着して使用する際には、前記トレイ 2 1 の底面 3 1 が起立されるとともに前記各収容部 3 2, 3 3 が横方向に配列して配置される。

【0071】

このため、前記各収容部 3 2, 3 3 に収容された蒸散剤が蒸散に伴って減少した場合、蒸散剤が各収容部 3 2, 3 3 の下側に偏ることとなる。

【0072】

このとき、前記蒸散剤を前記トレイ 2 1 の底面 3 1 側から加熱する加熱源としての加熱板 1 1 2 は、前記各収容部 3 2, 3 3 の下寄りに配置されている。このため、各収容部 3 2, 3 3 の下側に貯留された蒸散剤を、前記加熱板 1 1 2 からの熱によって効率的に加熱することができる。

20

【0073】

これにより、蒸散剤減少時での蒸散効率の低下を防止する効果を得ることができる。

【0074】

なお、本実施の形態では、第一収容部 3 2 と第二収容部 3 3 とが横並びに配列されたカートリッジ 1 2 を例に挙げて説明したが、この形態に限定されるものではなく、さらに 3 つ以上の複数の収容部を並設しても良い。

【0075】

また、前記カートリッジ 1 2 のトレイ 2 1 に形成する収容部は、必ずしも横並びに並設する必要は無く、前記トレイ 2 1 の底面 3 1 を全体的に加熱できるのであれば、円形の収容部を周方向に四分割しても良い。

30

【0076】

このとき、前記収容部の形状は、円形に限定されるものではなく、矩形状であっても良い。

【0077】

なお、本実施の形態では、各収容部 3 2, 3 3 に異なる蒸散剤としての薬剤を収納するものについて記載したが、各収容部 3 2, 3 3 に同一の薬剤を収容してもかまわない。

【図面の簡単な説明】

40

【0078】

【図 1】本発明の一実施の形態を示す斜視図である。

【図 2】同実施の形態の分解斜視図である。

【図 3】同実施の形態のカートリッジを底面側から見た状態を示す斜視図である。

【図 4】同実施の形態のカートリッジを示す底面図である。

【図 5】同実施の形態のカートリッジを示す側面図である。

【図 6】同実施の形態の要部を示す横断面図である。

【図 7】同実施の形態の要部を示す縦断面図である。

【図 8】同実施の形態の裏ケースを示す斜視図である。

【符号の説明】

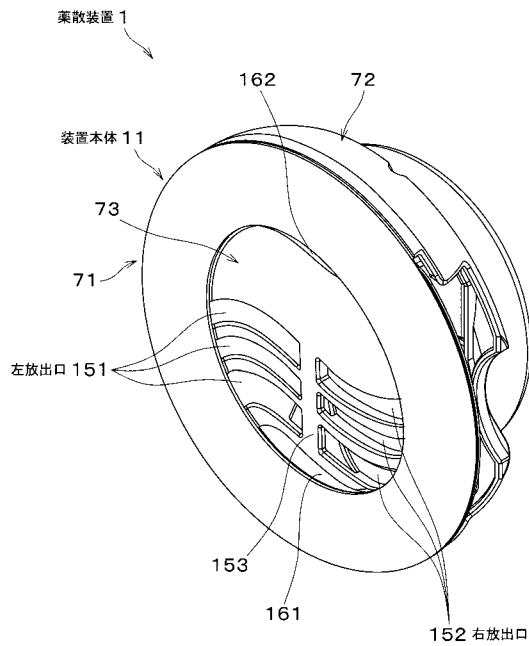
50

【0079】

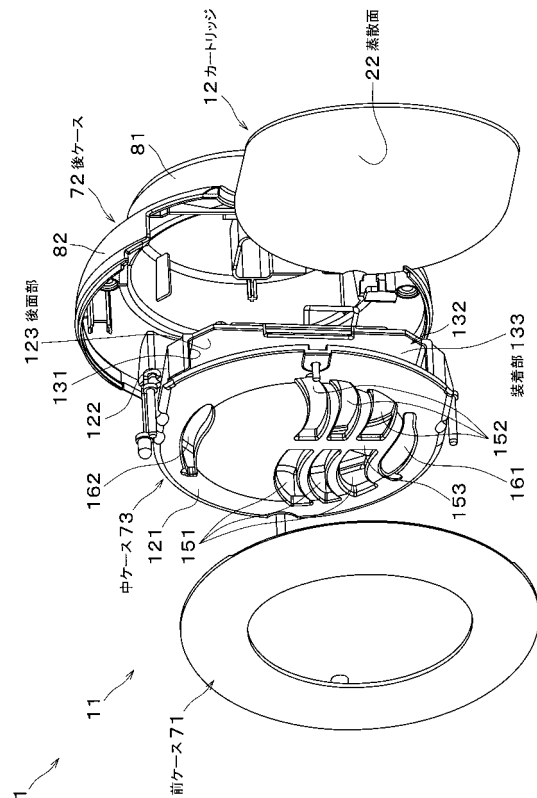
1	蒸散装置
1 1	装置本体
1 2	カートリッジ
1 2 b	下縁
2 1	トレイ
2 2	蒸散面
3 1	底面
3 2	第一収容部
3 3	第二収容部
7 1	前ケース
7 2	後ケース
7 3	中ケース
1 1 2	加熱板
1 2 3	後面部
1 3 2	挿入部
1 3 3	装着部
1 5 1	左放出口
1 5 2	右放出口

10

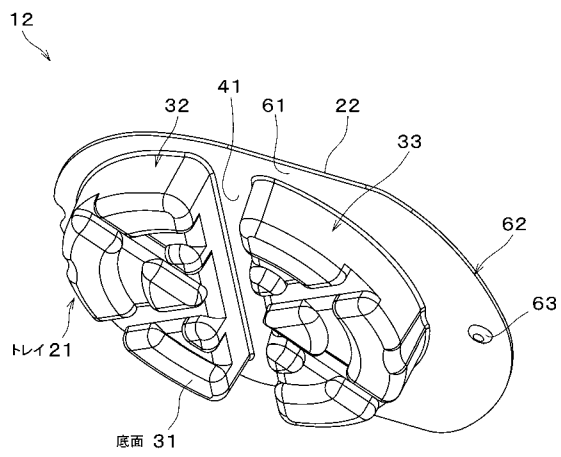
【図 1】



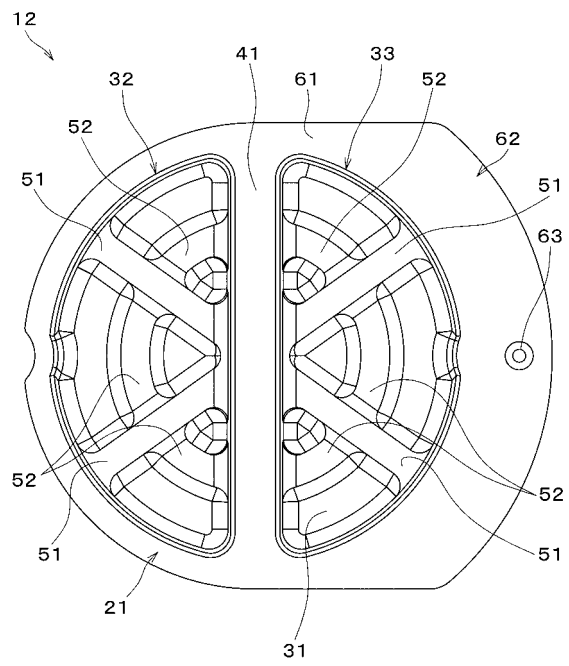
【図 2】



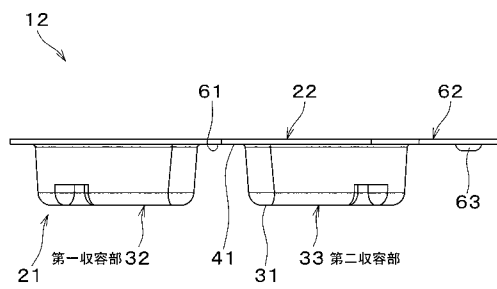
【図 3】



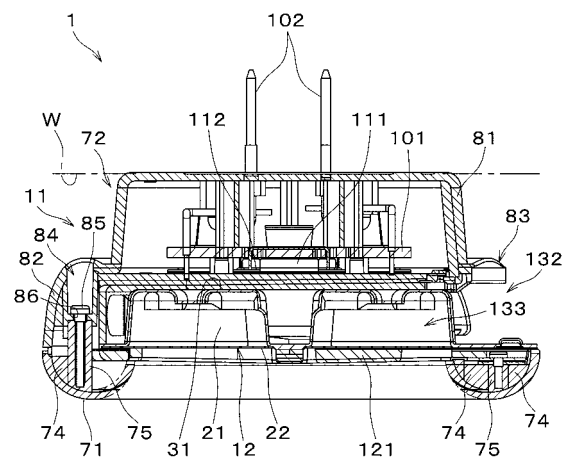
【図 4】



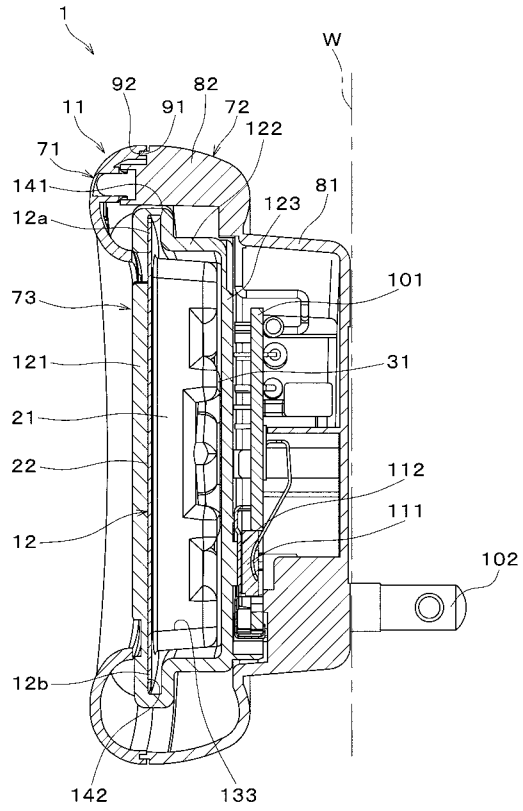
【図 5】



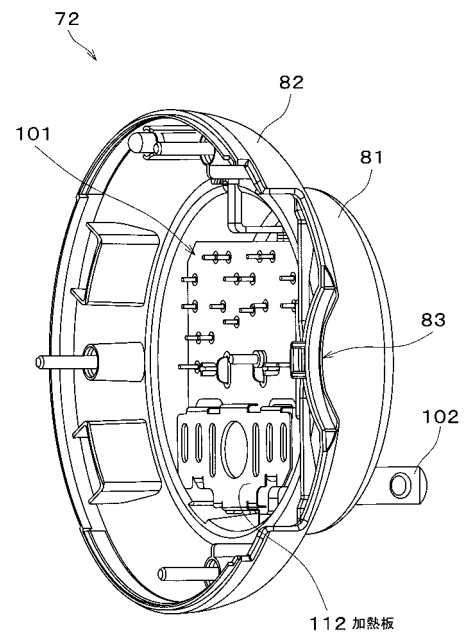
【図 6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

審査官 菊谷 純

- (56)参考文献 実開平04-136082 (JP, U)
特開2004-057002 (JP, A)
実開平05-056147 (JP, U)
特開2002-209999 (JP, A)
特開2003-305113 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A 61 L 9/00-9/22
A 01 M 1/20